

平成30年度 唐津市立久里小学校 学校評価結果

1 学校教育目標
豊かな心を培い、夢の実現に向かって、いきいきと活動する子どもの育成
2 学校経営ビジョン
<p>1 子どもたちが誰もが「楽しくわかる」「毎日通いたい」と思うことができる久里小学校</p> <p>・「楽しくわかる授業」の実現、家庭と連携した基本的な生活習慣、学習習慣の定着を図る。</p> <p>・豊かな心を持ち、認め合い、支え合い、思いやりのある子どもを育成する。</p> <p>・自他の命を大切に、心身ともにたくましい子どもを育成する。</p> <p>2 保護者・地域が安心して信頼して任せられることができる久里小学校</p> <p>・特色ある学校づくりを推進し、家庭、地域に信頼される学校をめざす。</p> <p>3 教職員が毎日意欲をもって勤務することができる久里小学校</p> <p>・弛まぬ学校経営や教育活動の評価・点検による学校の活性化及び教職員の資質向上をめざす。</p>

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
<p>①全教育活動を通して、基礎・基本の指導を徹底し、学習内容の確実な習得を図ると共に、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす。</p> <p>②感動する心と思いやる心、郷土を愛する心を育むとともに、自己肯定感を育み、よりよい生活・人間関係づくりの構築をめざす。</p> <p>③価値ある行事・体験活動を通して一人一人が達成感を味わい、自発的に計画し実践する力を育て、共に支え合う仲間づくりを進める。</p> <p>④子どもの運動習慣を把握し、健康や成長のためには運動が欠かせないことを理解させ、何事に対しても最後までやりとげる心情及び運動習慣の形成に努める。</p>	<p>全体的な評価としては、前年度の重点目標について概ね達成できたと言える。各重点目標については、下記のような状況であった。</p> <p>【①全教育活動を通して、基礎・基本の指導を徹底し、学習内容の確実な習得を図ると共に、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす。】</p> <p>学力向上については、県の学力調査でどの教科もほぼ平均値を修めた。これは、児童の思考に沿った授業展開を目指し全校で学習過程の統一したことにより教師側の目的意識が明確になり、児童も主体性をもって交流活動に取り組んだためと考えられる。また、この取り組みについては、91%の保護者から高い評価を受けている。本年度は更に朝の学びの時間を設定し、低学年は基礎的・基本的内容について、高学年は活用する力を意識した問題に取り組んできた。ICTの活用については、昨年度よりさらに職員員の活用が進んでいる。全学級が取り組んだ校内研究においてもICTを取り入れ有効に活用した授業が多くみられた。</p> <p>【②感動する心と思いやる心、郷土を愛する心を育むとともに、自己肯定感を育み、よりよい生活・人間関係づくりの構築をめざす。】</p> <p>「あいさつ」「ろう下歩行」「無言掃除」「はき物を揃える」を生活の4本柱として年間を通して取り組み、意識して生活が出来るようになってきた。毎月1日に「なかよしアンケート」を実施し児童の様々な思いをすくい上げる取り組みと共に、年間2回のQ-Uアンケートを実施して児童や学級の状況を客観的に把握することにも取り組んだ。以上のことから保護者の96%が「楽しんで学校に登校している」と回答し、児童も「なかよしの友だちがいる」と95%が回答している。本年度は人権・同和教育を推進するために毎月の全校朝会で、教師が人権に関する講話を行い人権について考える機会を設けた。</p> <p>【③価値ある行事・体験活動を通して一人一人が達成感を味わい、自発的に計画し実践する力を育て、共に支え合う仲間づくりを進める。】</p> <p>全校的な取り組みとしてはグループ集会や縦割り班での活動、全校での集会活動などに年間を通して取り組んだ。また、学級では道徳や学級活動の時間に、児童一人ひとりのよさに気付かせたり、友だちとの良い関係に気付くことの大切さなどを授業で取り上げたりした。体験活動では、5年生が農業体験をしたのはじめ3年生がグループホームを訪問したりした。各学年が地域との連携を密にしているような体験活動を行った。その結果、保護者の95%が「取り組んでいる」と評価し、児童の95%が「久里地区はいいところだと思う」と回答している。各学年の取り組みが理解され児童も地域のよさを感じていることが分かる。</p>

5 総括表

①全教育活動を通して、基礎・基本の指導を徹底し、学習内容の確実な習得を図ると共に、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価及びその理由	成果と課題
学校運営	○活用力研究の深化	・新学習指導要領の円滑な実施につながるよう、また主体的・対話的で深い学びの実現を期した授業研究を進め、活用力の育成を期した校内研究を推進する。	・算数科で「わかった」「できた」と思うことが増えてきたといえる児童を80%以上にする。 ・「な・か・よ・し」の学習段階の中にパーソナルワーク・グループワーク・クラスワークを効果的に設定した授業作りをする。 ・グループワークの進め方の習熟を図り、協働学びの充実を目指す。	・校内研で、以下のことを中心に研究を進める。 ○考える楽しさを味わわせる授業作りの進化(学習過程・時間配分) ○交流活動の定着化(友だちタイム・みんなでタイム) ○振り返りの充実(「よさをみつけよう」「しっかりわかったよ」適用問題)	A ・全学年の授業研究会を中心に、「活用する力を伸ばす工夫」「グループワークの進め方の工夫」「クラスワークの意見交換の工夫」を柱に授業の改善を図った。事前の指導案検討や事後の話し合いを行い、成果と課題を共有し、日々の授業に生かす流れができた。 ・児童は、「な・か・よ・し」の学習過程とパーソナルワーク・グループワーク・クラスワークの流れに慣れてきた。グループワークでは、司会マニュアルを使ったり、役割分担を輪番で行ったりしながら、話し合いの深まりを図った。 ・「よさをみつけよう」で学習内容のまとめをし、「しっかりわかったよ」で自分の学びに対する振り返りを行うことを意識し、できるだけ書かせる時間を取り、定着を図った。	・算数科では、学習過程や交流活動に対する共通理解が深まり、日々の授業に浸透してきた。教師側の目的意識が明確になり、児童も学習の流れに慣れ、主体性をもって学習に取り組むことができるようになってきた。さらに工夫を重ね、児童が意欲的に取り組み、考える楽しさを味わう授業作りを目指す。 ・グループワークでは、自分の意見を述べることができる児童が増えたが、その後の吟味に課題が残る。また、クラスワークでも各班の意見を出した後の交流が難しい。児童が納得し、思考が深まる学びになるよう模索したい。 ・まとめや振り返りを書くことには慣れてきたので、より充実した内容になるよう、指導を工夫したい。
教育活動	●学力向上	・新しい時代に対応した学習内容の構築、児童理解に基づいた授業を実施する。 ・読書に親しみ、豊かな心を育成する。	・標準学力検査(1～3年)及び、県学力調査(4～6年)で平均値を目指す。 ・家庭学習の目標時間(学年×10分+10分)の達成率を80%を目指す。 ・読書30選の達成率60%を目指す。	・「くりのこタイム」(15分)を設定し、基礎的・基本的な学習の定着を図る。 ・家庭学習の手引きを配布し、保護者への啓発をする。 ・読書を推進する。(さわやか読書・読書30選・図書館祭り など)	A ・算数で「わかった・できたと思うことが増えた」と言える児童が82%になった。保護者アンケートでも「学校は子どもが楽しんで学習に取り組むよう授業を工夫している」の項目で95%という高評価を得た。 ・15分間のくりのこタイムで、学年に応じて国語・算数を中心に基礎的・基本的なプリント学習などの取り組みを行った。高学年は活用する力を意識した問題にも取り組んだ。 ・県学力状況調査では、どの学年もほとんどの教科で県平均値を上回った。 ・「家庭学習の習慣化に努める」について保護者は74%の達成率で、児童は家庭学習の目標時間の達成率は78%であった。 ・読書30選の達成率は1月22日現在43%である。本年度は7月から夏休みにかけてバーコード作業があまり出しが出来なかったことも影響していると思われる。	・くりのこタイムは朝の学びの時間として定着してきた。更に充実した内容になるよう各学年に合った内容を計画的に進めたい。また、活用する力を意識した問題にも取り組む機会を増やしたい。 ・家庭学習については通信や懇談会などで引き続き保護者への啓発を行い、連携する必要がある。また、高学年になるに連れSNSの利用時間が長くなることから家庭学習の時間に影響していると考えられ、今後授業等で取り上げて指導を行う必要がある。 ・低学年は読書の時間を設けて図書室へ足を運ぶ機会が多い。高学年は図書室の時間を設けることは難しいが、担任の声をかけて休み時間を利用して足を運び、貸し出し数をのばしている学級もある。今後も継続して声かけを行い、読書に親しませたい。

②感動する心と思いやる心、郷土を愛する心を育むとともに、自己肯定感を育み、よりよい生活・人間関係づくりの構築をめざす。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価及びその理由	成果と課題
教育活動	●心の教育	・あいさつ、規律ある生活(規範意識)、清掃活動等を徹底させる。 ・人権・同和教育を積極的に推進する。 ・特別支援教育の充実・深化を図る。	・「あいさつ」「ろう下歩行」「無言掃除」「はき物を揃える」を、本校の生活の四本柱として目標に据え、一年間徹底して取り組む。年間を通して達成できる児童を90%にする。 ・全教育活動を通して、人権が尊重される人間関係づくりや、いじめや差別・偏見をなくそうとする心情・態度を育てる。 ・人権・同和教育の視点に基づいた教師の話を通して、人権意識を高める。 ・安心して学習できる支援体制を整える。	・児童の生活カードの項目の中に、「生活の四本柱」を必ず入れて、毎日、継続的に達成できているか振り返る。児童への意識化を図る。 ・日常の教育活動全般において、お互いの違いやよさに気づき、自他ともに大切にすることを育む(朝の会や帰りの会、たてわり班活動、グループ集会、人権ポスター・人権標語、平和集会、人権講話、人権教室など)。 ・毎月の全校朝会で教師が人権に関わる講話を行い、全児童で人権について考える機会を持たせる。 ・学習に遅れがちな児童は、特別支援学級担任や級外が個別支援にあたる。	B ・「元気な気持ちのいいあいさつ」は、保護者の81%、児童の90%であった。 ・また児童の意識調査では、「友達と協力して無言掃除をしている」が89%、「くつやスリッパをそろえている」が78%であった。 ・「道徳教育や仲間づくりを意識した取り組み」について、保護者の91%が「取り組んでいる」と評価している。	・保護者や児童が「あいさつができて」と感じているように、学校内でのあいさつは、上手になってきている。しかし、学校外ではもっと良くなってほしいという声があるので、相手を問わず誰にでも元気にあいさつできる習慣の定着を、各学年の発達段階に応じて仕込んでいきたい。 ・児童は生活の4本柱を意識して生活している。今後も無言掃除やくつ並べなどの素晴らしい実践ができるように、教師が継続的に指導していきたい。 ・クラスでの取り組みが保護者に理解され、児童の自己肯定感や自己有用感が育ってきている。 ・今後も、道徳や学活の時間等の取り組みを見直し、更に発展させ、よりよい人間関係を育てていきたい。またグループ集会での仲間作り、縦割り班での異学年との交流、全校での集会活動等を通して、人権意識を育む取り組みを、今後も継続していきたい。 ・学年ごとに生活科や総合的な学習などで、様々な体験活動(様々な交流活動や稲作りなど)に児童は意欲的に取り組み、郷土愛が培われてきている。継続したい。
教育活動	●いじめ問題への対応	・いじめを許さない土壌作りと防止対策の充実を図る。	・「なかよしアンケート」や児童のこまめな観察・保護者との面談等を通して、いじめの早期発見、全職員での共通理解、適切な対応に努める。 ・一人ひとりがクラスで楽しい学校生活を送れるようにする。 ・いじめに対する職員員の認知力を高め、いじめの防止に努める。	・毎月1日に「なかよしアンケート」を実施し、児童の様々な思いを素早くすくい上げられるようにする。慎重な対応が必要な場合は、生徒指導協議会で共通理解し、児童の支援に役立てるようにする。 ・クラスの雰囲気や適応していない児童を客観的に把握して、一人一人が楽しい学校生活を送れるように仕向ける(Q-Uアンケートなど)。 ・教師がいじめの残酷さを強く理解することで、児童間のいじめの認識力を高め、日常的にいじめ防止に努める(いじめに関する職員研修)。	B ・保護者の意識調査では、87%が「担任は子どもたちが楽しく学校へ登校できるよう努めている」と答えている。また児童は78%が「毎日学校へ行くのが楽しい」と答えている。	・楽しんで学校生活を送り、友達とも仲良く過ごしていることが察せられる。 ・毎月1日の「なかよしアンケート」などで不安や悩みを感じている児童を迅速にすくい上げ、教職員間で連携していく体制を作ってきた。 ・集団の中で関係の持ち方が未熟なので、更に改善するため、社会性を身に付ける学習プログラムの提案をしていく。 ・教師がいじめの残酷さを理解することで、児童間のいじめの認識力を高め、日常的にいじめの防止に努めたい。

③価値ある行事・体験活動を通して一人一人が達成感を味わい、自発的に計画し実践する力を育て、共に支え合う仲間づくりを進める。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価及びその理由	成果と課題
教育活動	○仲間づくり	・特別活動の充実を図る。 ・体験活動を重視する。 ・地域との連携を進め、開かれた学校づくりをめざす。 ・危機管理(災害対応マニュアルの見直し)の徹底と防災体制の構築・充実を図る。	・特別活動の行事を工夫し、ともに支え合う仲間づくりを進めることで、皆との活動が楽しいと思う児童を育てる。 ・学校での行事が好きと思える児童を増やす。 ・家庭や地域の良さを理解し、行事について自発的に計画し、主体的に実践する児童を育てる。 ・災害時に自ら正しく判断し、行動できる児童を育てる。	・グループ集会での仲間づくり、たて割り班での異学年との交流、全校での集会活動などを通して、よりよい人間関係の構築を図る。 ・各教科や総合的な学習の時間では、体験的な学習を多く取り入れ、仲間とともに実感を伴う活動の場を設定する。 ・運動会や久里小フェスタなど様々な行事を通して、地域との連携を密にしている。 ・昨年度の反省を生かし、様々な災害を想定し、年間を通して5回の各種避難訓練を計画的に行う。	A ・保護者の93%が「よりよい仲間づくりを行っている」とし、児童の88%が「たて割り班活動が楽しい」とした。 ・「子どもたちのよりよい人間関係を育むための道徳教育や仲間づくりを意識した取り組みを行っている」と受け止めている保護者が、昨年度の89%から今年度は91%へ向上した。 ・96%の保護者が「地域の人のかわり方を深め、地域のよさに触れる取り組みを行っている」ととらえている。児童の93%は「久里地区はいいところだと思う」ととらえている。 ・新校舎となり、必要に応じて計画的に避難訓練を行うことができた。避難経路だけでなく、多様な場面を想定しながら具体的な避難方法を指導することができた。	・「よりよい仲間づくり」については、今後も100%を目指し、その年度にあった方法で道徳や特別活動の取り組みを見直し、よりよい人間関係を育んでいきたい。 ・学校生活に楽しさを感じていない児童が2割程度いるので、その原因や理由を把握し、改善につながる手立てを構築していきたい。 ・道徳や学活の時間に、児童一人ひとりのよさに気づかせたり、友達とのよりよい関係づくりの大切さを考えさせたりする。 ・学校やクラスの行事に積極的に参加できていない児童に、縦割り班活動や全校集会などの活動を通して、自己肯定感を育てたり人権意識を養ったりしていく。 ・今年度は体育館が使えない中でも保護者が来校できる機会を確保することができたことで、好意的なとらえ方をしてもらうことができた。来年度は、体育館が使えないので、今年度はまた違った形で家庭や地域と連携する場を充実させていきたい。 ・各学年がいろいろな体験活動を計画し、実施できている。今後も充実させていきたい。 ・学校に来てもらうばかりではなく、こちらから地域に出かける活動も充実させていきたい。 ・不審者避難訓練では、職員による事後研修も行うことができ、実践を想定した意見交流を行うことができた。

平成30年度 唐津市立久里小学校 学校評価結果

④子どもの運動習慣を把握し、健康や成長のためには運動が欠かせないことを理解させ、何事に対しても最後までやりとげる心情及び運動習慣の形成に努める。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価及びその理由	成果と課題
教育活動	●健康・体づくり	・運動週間の形成に努める。 ・食育を推進し、健やかな体作りを進める。	・県の「スポーツチャレンジ」に積極的に取り組ませることで、場所を問わない体づくりの運動や仲間作りができるように、体育授業での活動を工夫する。 ・朝食の摂取率95%以上を目指す。 ・アンケート調査をもとに、各クラスで児童の実態に応じた食育の授業を実施する。	・学習カードや体育用具を充実させ、いつでも誰でも使えるように整備する。 ・運動場が整備されたことをきっかけに、マラソン大会、なわとび大会などの実施や県の「スポーツチャレンジ」への積極的な参加を促すことで、日常の学校生活での外遊びを奨励する。 ・年1回以上は、食に関する授業を実施する。 ・給食委員会が中心となり、食事の栄養やバランス等を考える集会を行う。 ・アンケート調査を実施し、児童の実態を把握するとともに、保健だよりや体験授業等を通して、食育の大切さを保護者へ知らせる。	B ・「体育の授業実践やスポーツチャレンジに取り組んでいる」の項目では、職員の91%が取り組んでいると回答している。 ・「わたしは、体育の時間や休み時間に体を動かすことが好きだ。」の項目で14%の児童が「好きではない」と回答している。 ・「わたしは、朝ご飯を食べて登校している。」の項目で98%の児童が食べていると回答している。 ・「子どもは、朝ご飯を食べている。」の項目では98%の保護者が食べていると回答している。	・運動場が整備されたことでマラソントimeやなわとびタイムなど、様々な体育的行事を行うことができた。 ・体育館工事の関係で7月から体育館が使えない中、職員で工夫をし、授業実践に取り組むことができた。スポーツチャレンジの取り組みは前年度より増えたものの、依然として取り組みは少ない。 ・休み時間に体を動かすことが好きでない児童が増えたものの、体育委員会の外遊び企画は好評で、来年度も継続して取り組ませ、外遊びを奨励していきたい。 ・低学年では給食試食会を実施し、保護者の方々に給食指導の様子を見て頂いた。 ・おにぎり弁当の日や鬼中校区での食育に関する講演などで児童や保護者の食育への関心、意欲を高めることができた。 ・栄養や食事について学習していることを日常の食生活や食習慣に活かしていけるように指導を行いたい。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価及びその理由	成果と課題
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・タイムマネジメントを考え、職務遂行を行う。	・効率的な業務を推進するために、情報共有化を図り、時間外勤務時間が1か月あたり40時間未満の教員の割合を9割以上とする。	・職員会議の議題案等は3日前に出し、あらかじめ目を通す時間を確保する。 ・特定の職員に業務が集中しないようマネジメントを行う。 ・定時退勤日を週に1日設ける。	A ・時間外勤務時間が1ヶ月あたり40時間未満の教員の割合は、12月までで87%である。 ・定時退勤日はほぼ全職員が守れている。 ・本年度は新しい行事に取り組んだことで中心となる職員の勤務時間が超過した。	・定時退勤日はもちろん、通常の勤務日も19時をめぐりに施錠を行うことを知らせることで時間内に退勤しようとする意識が芽生えている。 ・来年度は校務分掌を見直し、特定の職員に業務が集中しないようマネジメントを行う必要がある。

6 総合評価

全体的な評価としては、本年度の重点目標について概ね達成できたと言える。各重点目標については、下記のような状況である。
【①全教育活動を通して、基礎・基本の指導を徹底し、学習内容の確実な習得を図るとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす。】
学力向上については、県の学力調査でどの学年もほとんどの教科で県平均値を上回った。これは、全学年で授業研究会を中心に授業改善を図り、成果と課題を共有して、日々の授業にいかす流れが出来たこと、グループワークを工夫して話し合いの深まりを図ったことなどが成果として現れたと考えられる。保護者アンケートでも「学校は子どもが楽しんで学習に取り組むよう授業を工夫している」の項目で95%という高評価を得た。一方、家庭学習の習慣化については目標の80%をやや下回っており、今後対応を検討しなければならないと考える。

【②感動する心と思いやる心、郷土を愛する心を育むとともに、自己肯定感を育み、よりよい生活・人間関係づくりの構築をめざす。】
児童は「あいさつ」「ろう下歩行」「無言掃除」「はき物を揃える」を生活の4本柱として意識して生活をしている。ただ、校内でのあいさつは上手になってきているが校外ではもっと上手になってほしいという声が聞かれた。意識調査では「なかよしの友達がいる」と答えた保護者が99%、児童が95%で楽しんで学校生活を送り、友達とも仲良く過ごしていることが察せられる。本年度もグループ集会での仲間作り、縦割り班での異学年の交流、全校での集会活動を通し、人権意識を育む取り組みを行った。

【③価値ある行事・体験活動を通し一人一人が達成感を味わい、自発的に計画し実践する力を育て、共に支え合う仲間づくりを進める。】
本年度は体育館が使えない中でも保護者が来校できる機会を確保することができ、意識調査では保護者の93%が「よりよい仲間づくりをおこなっている」と好意的な答え方をしている。また、各学年がいろいろな体験活動を計画し実施したことで、児童の93%が「久里地区はいいところだ」と思っていると述べている。

7 来年度の改善策

- ①全教育活動を通して、基礎・基本の指導を徹底し、学習内容の確実な習得を図ると共に、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす。
【活用力研究の深化】
算数科では学習過程や交流活動に対する共通理解が深まってきたので、さらに工夫を重ね、児童が意欲的に取り組み、考える楽しさを味わう授業作りを目指す。また、グループワークでは、出した意見に対する吟味に課題が残り、クラスワークでは各班の意見を出した後の交流が難しいので、児童が納得し、思考が深まる学びになるよう模索したい。さらに、まとめや振り返りを書くことには慣れたこと、より充実した内容になるよう、指導を工夫したい。
【学力向上】
「くりのこタイム」は朝の学びの時間として定着してきたので、充実した内容になるように各学年にあった内容を計画的に進めると共に、活用する力を意識した問題に取り組む機会を増やしたい。また、家庭学習については生活面の見直しを含め指導を行い、意識を高めた。
- ②感動する心と思いやる心、郷土を愛する心を育むとともに、自己肯定感を育み、よりよい生活・人間関係づくりの構築をめざす。
【心の教育】
相手を問わず誰にでも元気にあいさつする習慣の定着を、各学年の発達段階に応じて仕組んでいきたい。また、グループ集会での仲間作り、縦割り班での異学年との交流、全校での集会活動等を通し、人権意識を育む取り組みを、今後も継続していきたい。さらに、生活科や総合的な学習の時間などで、様々な体験活動についても継続して行いたい。
【いじめ問題への対応】
毎月1日の「なかよしアンケート」などで不安や悩みを感じている児童を迅速にすくい上げ、教職員間で連携する体制を作っていく。また、集団の中での関係の持ち方が未熟なので、更に改善するため、社会性を身につける学習プログラムを提案していく。
- ③価値ある行事・体験活動を通し一人一人が達成感を味わい、自発的に計画し実践する力を育て、共に支え合う仲間づくりを進める。
【仲間づくり】
学校生活に楽しさを感じていない児童が2割程度いるので、その原因や理由を把握し、改善につながる手立てを構築していきたい。学校やクラスの行事に積極的に参加できない児童に、縦割り班活動や全校集会などの活動を通して、自己肯定感を育てたり人権意識を養ったりしていく。地域との連携については、学校に来てもらうばかりでなく、こちらから地域に出かける活動も充実させていきたい。
- ④子どもの運動習慣を把握し、健康や成長のためには運動が欠かせないことを理解させ、何事に対しても最後までやりとげる心情及び運動習慣の形成に努める。
【健康・体づくり】
休み時間に体を動かすことが好きでない児童が増えたものの、体育委員会の外遊び企画は好評で、継続して取り組ませ、外遊びを奨励していきたい。食育については、栄養や食事について学習していることを日常の食生活や食習慣に活かしていけるような指導を行いたい。